

令和5年3月10日

静岡市教育委員会 様

静岡市スポーツ推進審議会

会長 木宮敬信

「静岡市スポーツ推進計画の次期計画策定に向けた諸方策の検討」

について（答申）

静岡市スポーツ推進審議会では、令和3年11月に静岡市教育委員会から諮問「静岡市スポーツ推進計画の次期計画策定に向けた諸方策の検討」を受け、本市のスポーツ振興の方向性を示す新たな計画の策定について審議し、第2期静岡市スポーツ推進計画が完成した。この計画が実効性のある計画となるよう、次のとおり答申する。

1 静岡市スポーツ推進計画について

（1）第1期静岡市スポーツ推進計画の現状と課題

第1期静岡市スポーツ推進計画（平成27年度～令和4年度）では、すべての市民がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支える活動に参画するために「スポーツの推進による健康で豊かな生活の実現」を理念に掲げた。この理念達成に向け、6つの施策の柱と29の基本施策による事業を実施した。「市民一人1スポーツ」を目標とし、その指標として「週1回以上の運動・スポーツ実施率（成人）」を68%に定め、本市のスポーツ実施率向上を目指した。

第1期計画期間中の主な取組として、平成30年5月に「静岡市駿府城ラン&

リフレッシュステーション」を整備し、市民の健康と交流の促進とともに、駿府城跡周辺の賑わい創出に繋がった。

また、「ラグビーワールドカップ 2019」や「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に合わせ、合宿の誘致や受入れ、交流事業を実施した。

トップレベルのスポーツにおいては、男子バスケットボール「ベルテックス静岡」や男子ラグビー「静岡ブルーレヴズ」が新たにホームタウンチームとして加わり、スポーツを活かしたまちづくり・ひとづくりのより一層の推進を図った。

しかしながら、令和3年度に実施した「静岡市スポーツ活動・生涯学習に関する市民意識調査」では、16歳以上の週1日以上スポーツ実施率は55.9%で、前回調査（平成30年度）の56.7%から0.8ポイント下がった。また、スポーツを「全くしない」と回答した人は、30代と40代の女性に多い傾向であった。その最も多い理由が「時間がない」であることから、この阻害要因を排除できれば、実施率は上がる可能性があると考えた。

これらの現状から、スポーツ実施率向上のためには、市民一人ひとりのライフスタイルの多様化や価値観の変化に対応した、スポーツの機会提供と環境整備がより一層求められ、並行して、スポーツを日常的に気軽に取り入れるための意識改革が必要であると考えた。

また、世界的規模の大会での合宿誘致や交流事業、ホームタウン活動の推進といった取組みにより、スポーツに対する市民の意識は高まっている。その機運を逃さないため、今後も取組みの継続が求められる。

(2) 第3期スポーツ基本計画及び静岡県スポーツ推進計画の反映や第4次静岡市総合計画との連動について

まず、スポーツ基本法において、市はスポーツ基本計画を参酌し、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画を定めるよう努力することが定められている。令和4年3月にスポーツ庁の第3期スポーツ基本計画が策定されたが、この基本計画ではスポーツの推進には新たな3つの視点が必要であると示された。新たな3つの視点「1. つくる／はぐくむ」「2. あつまり、ともに、つながる」「3. 誰もがアクセスできる」は、国民がスポーツを「する・みる・ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すために必要な視点と示されていることから、これを第2期静岡市スポーツ推進計画に参酌した。

次に、静岡県スポーツ推進計画では、「スポーツの聖地づくり」を基本理念とし、スポーツの力ですべての県民が健康で豊かに暮らし、スポーツによるQOLの向上を実感できる社会を目指している。この基本理念達成のために、「1. スポーツによる健康づくりの推進」「2. スポーツ文化の醸成とスポーツを通じた共生社会の実現」「3. 地域特性を活かしたスポーツによる地域と経済の活性化」の3項目を基本方針として定めた。第2期静岡市スポーツ推進計画ではこの3つの基本方針を勘案し、計画の基本方針や施策の体系を作成した。

また、令和5年度を始期とする第4次静岡市総合計画では、静岡市は『世界に輝く静岡』の実現』をまちづくりの目標とし、「市民（ひと）が輝く」と「都市（まち）が輝く」の2つの要件を兼ね備えたまちを目指す。この総合計画は、中核をなす取組として定められた10の分野別政策と、「世界に輝く静岡」を実現するための推進力（エンジン）として位置付けられた5大重点政策により構成されている。スポーツの推進については、分野別政策と5大重点政策の両方に位置付けられており、第2期静岡市スポーツ推進計画では、スポーツが持つ力をまちづくりに活かすことを軸とし、第4次静岡市総合計画と連動した施策を推進する。

(3) 第2期静岡市スポーツ推進計画の構成（基本方針及び施策の柱）

基本理念「スポーツが持つ力で、誰もが健康で豊かな生活を実現する」

基本方針1 誰もが楽しむことができるスポーツの推進

（施策の柱1）ライフスタイルに応じたスポーツの推進

（施策の柱2）スポーツを通じた地域・他分野との連携

ライフスタイルに応じて参加できるスポーツ教室の開催や、スポーツ推進委員との協働による地域でのスポーツ活動の推進により、年齢や性別、障がいの有無等にとらわれないスポーツの機会を創出する。

基本方針2 スポーツに日常的に親しむための環境整備

（施策の柱1）スポーツを支えるための場づくり

（施策の柱2）スポーツを支えるための人づくり

スポーツ施設等の整備やスポーツイベント開催等による「場づくり」とともに、スポーツ指導者をはじめとしたスポーツを支える人達への支援を行う「人づくり」で、ハード(有形)とソフト(無形)の二方向から、様々な人がスポーツに親しむための環境を充実させる。

基本方針3 スポーツを通じた人々の交流による地域の活性化

（施策の柱1）スポーツツーリズムによるMICEの推進

（施策の柱2）ホームタウン活動の推進

全国大会等の大規模なスポーツ大会の開催支援や合宿の誘致を通じたスポーツツーリズムによるMICEの推進や、ホームタウンチームとの連携・協働等のホームタウン活動の推進により、スポーツを活かした人々の交流で地域の経済を活性化する。

2 スポーツ実施率向上に向けた、各諮問項目に対する回答について

スポーツ庁の第3期スポーツ基本計画では、成人の週1回以上のスポーツ実施率を70%にすることを目指している。このため、第2期静岡市スポーツ推進計画（以下、第2期計画）では基本方針1－施策の柱1の指標を「16歳以上の週1日以上スポーツ実施率」とし、2030年までの目標値を70%に定めた。この目標を達成するため、以下の事項を第2期計画に取り入れた。

(1) 「スポーツ・イン・ライフ」の更なる推進

第1期計画における「スポーツ・イン・ライフ」の推進は、スポーツ庁の考え方に沿った、スポーツ実施率の向上に向けた取組みであった。

しかし、スポーツの楽しみ方にはスポーツを「する」だけではなく、スポーツ観戦のような「みる」楽しみ方や大会ボランティアのような「ささえる」楽しみ方も含まれる。「する・みる・ささえる」の融合により、「みる・ささえる」に携わっている人が「する」に繋がる好循環が生まれる。

スポーツの楽しみ方をこのように捉えると、市民一人ひとりがいくつものスポーツを楽しむことができると言える。

そこで、第2期計画で推進する「スポーツ・イン・ライフ」は、「する・みる・ささえる」の3つの楽しみ方を対象とする。それらの好循環が市民に「一人1スポーツ」を超える効果をもたらすと期待し、「静岡型スポーツ・イン・ライフ」を新たなスローガンとして、基本理念の達成を目指す。

(2) スポーツに対する関心度及びスポーツ実施率の低い世代に応じた施策

令和3年度に実施した市民意識調査により、スポーツ実施率は30代と40代の女性や働く世代で低い傾向であることが明らかになった。そこで、第2期計

画では、基本方針1の基本施策に「働く世代と女性のスポーツ活動の推進」を定め、スポーツをされない女性や働く世代をターゲットとした事業を実施することで、スポーツ実施率の底上げにつなげる。

(3) 健康長寿、障がい者スポーツ、運動部活動改革などの施策に関する市関係部署、スポーツ団体、教育機関、民間事業者との協力及び連携

スポーツ実施率の向上には、これまでスポーツに関わりが少なかった市民へのアプローチが重要で求められることから、福祉や教育をはじめとするスポーツ以外の部門との連携や相互の協力が必要である。このため、第2期計画では、基本方針1の基本施策に「他分野との連携によるスポーツ活動の推進」と「地域や企業との連携・協働によるスポーツ活動の推進」を定め、市の関係部署や民間事業者等と連携した事業を実施することで、市民の誰もがスポーツに触れる機会を創出する。

3 まとめ

第2期計画では、「スポーツが持つ重要な価値」に目を向け、諸方策を検討した。スポーツには、健康増進や意欲増加のようなスポーツ自体に備わる「個人に与える価値」と、地域課題解決の手段や交流促進のような地域の活性化に資する「社会に与える価値」がある。これらの価値は、「心や体を元気にする力」や「まちを賑やかにする力」、「人との繋がりを育てる力」といった、個人の生活や地域社会をより豊かにする力を備えていると考える。このような「スポーツが持つ力」が本市のまちづくりに活かされ、市民の誰もがスポーツを楽しむことで、自分らしく健康で豊かとなる生活が実現することを期待する。